

「高城プライド」 ～心と形を整える～

令和3年6月4日（金） NO9 文責 木下 文秋

念ずれば 花開く

皆さんは「念ずれば、花開く」という言葉を聞いた事があるでしょうか。この言葉は熊本県の詩人 坂村真民（さかむらしんみん）という人の詩の一節に出てくるものです。「念ずれば花開く」とは、ただ念じていれば、願いをしていれば、夢や希望が叶うという意味ではありません。本当の意味は、一生懸命祈るように「努力する」ことで自ずと道が開ける、夢や目標が叶うという意味です。「念」という漢字を分解すると「今」と「心」という漢字が出てきます。これは「今」の思いや願いを自分の「心」に乗せ、目の前にあることを一生懸命やることの大切さを意味しています。すなわち「念ずれば、花開く」の言葉の裏には「今を大切に生きないと花（夢）は開かない」という教えが隠されているのです。また、スポーツの世界では「努力した者が成功するとは限らないが、成功した者はみな必ず努力している」という言葉もあります。確かに努力をしても敗れ去っていく者はたくさんいます。どんな競技でも、努力した結果が勝利に結びつくとは限りません。しかし、勝利した選手やチームは、みんな努力を積み重ねてきたことは言うまでもありません。今月は県立高校、来月は私立高校の説明会が予定されています。3年生にとっては自分の進路選択をする大きな機会となります。宮崎県では私立より県立の志願者が多いですが、私は私立高校の説明会に行って、私立の特色ある教育にととても興味がわきました。調理や自動車、介護や福祉は県立高校では奥深く学ぶことはできませんが、私立高校ではかなり特化した教育を受けることができる上に、資格まで取得できます。自分の適性や将来を見据えて高校入試を考える必要があります。「念ずれば花開く」のごとく、自分の思いを乗せて一生懸命努力してください。教員となって30年以上入試を見てきました。こういう話を耳にして、すぐ行動を起こす人と起こさない人の差で結果に違いが出ます。もっと先のことだと思って、自由気ままなことをしては実力がつきません。「周りのみんなもまだまだそんな雰囲気ではない」と油断していると、そのうち一人二人と入試モードに入っていきます。気がついたら一人ぼっちになることのないように。どんなに仲がいい友達でも「自分と一緒に高校落ちてくれ」と頼んで、うなづいてくれるそんな仲間はいないのでから。